



新嘉坡

新嘉坡

新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡
新嘉坡

認

台

下



大阪市西區南堀江通壹丁目
勝本忠兵衛

聖門の事理

出でるの事の如くと詳

めにあらわすは定へり

かくもとくとくとく

今度の流行を今此感

情内此に絶え実を去

九月の微恙甚難

今解熱一石仕斯了了

幸十数日出氣之微候

と減」御室と也よし

居不出院某地に就く半

季候アラセ也んと色

うし得る、蟻も草木の

礎と生れ未だ心の外

季代アラセ也
らし得、我をもるの

壁と生了心の

今朝井出の柳葉者の中
心一筋刻々の、あは

心一筋刻々の、あは

特表提出業者、事の入
りと被事方をあはる御

心一筋刻々の、あは

う一め居の御ことづ

事あり、あつて、金て

申ら感づるゝせにと

申たるに之を全て

心一筋刻々の、あは

申たるに之を全て

告ぐよすをうつらう

此一卷之餘
他處更無

也。故出此印之

告。此印之用

情。此印之用。此印

被。此印之用。此印

大。此印之用。

此印之用。

此印之用。

此の平伐が御心より
かゆ候事も御心より
お矣を有り也と常
御の如き出でて在
御の如きは即ち有り
御室は即ち空位と
ありませひと空位と
極へ立たれども其を
初一轍仕を有りて
之根脚不滿、隙若干
萬に付一切の精室を禱
しより向ふが為善生
れ殊り底にと常と是
ゆれ御事と相成不
申る事れ断ぬつて
あるゆる事と是れ

中ひきくわざをうめく

あらゆる心こころを

群衆提出利口とれり

門一の體格實力堂

とて天下の丸士。

と壁側へ降けたる手

隙平條かろん舌を捲

て底に立たむる者

役名へとある。決定入

詰其邊際一出師

の経や。のよお高

二大の火供、火事齋戒奉せら

了、かと考ひ憶めたの

五、さざれ

ソモ群衆也否相處
社常祭、事跡を取
る由申居て是れ放

二大の供ひ舞昇せり
了、かと考ひ候也の
五、
ソモ御奉任
社事第。事第を取
る由申居川荒々放て
ヶ月と候ちん御案
の御子たと觀る
焼ひ一帯ひCより
た如廻りか多(か)リ
スワタセンダの一席と
定じ一席其際一毒氣
り出し測一ミ社長と
か後と事第を拔く
付すと考ひ候也又復
付すと考ひ候也

一
元大中